

台風 15 号・19 号・21 号による被害

9 月上旬から 10 月下旬にかけて相次いで台風が関東地方に接近・上陸し、演習林内に甚大な被害を及ぼしました。なかでも観測史上最強クラスの勢力で 9 月 9 日未明に千葉県へ上陸した台風 15 号は、千葉演習林が所在する鴨川市や君津市を含む千葉県の広範囲にわたって記録的な強風をもたらしたため（君津市に隣接する木更津市で最大瞬間風速 49.0m/s を記録）、送電塔や電柱の倒壊と倒木による影響で停電、断水、道路の通行止めが相次ぎました。また、10 月 12 日に伊豆半島に上陸した台風 19 号は、関東甲信から東北地方の各地で時間雨量が観測史上 1 位を更新するなど、記録的な大雨となりました。秩父演習林が所在する埼玉県秩父市では、台風による降雨量が 687mm に達し、年間降水量の約 4 割に当たる雨がわずか 1~2 日の間で降るといった記録的なものとなり、その影響により各地で土砂崩落が発生しました。

【千葉演習林の被害状況】

台風 15 号による強風被害は、国道や県道などの道路の他に鉄道にも及んだことから、多くの職員が通勤困難な状況に陥りました。出勤できた職員だけで事務所庁舎や学生宿舎などの建物を中心に、林内の被害状況調査を進めましたが、林道の入口付近から幾重にも重なった倒木や路肩の崩壊、土砂崩れなどが連続して発生しており、車の移動での調査ができず主要な林道沿いの被害の全容把握だけでも時間を要しました。また、停電は 9 月 13 日までの 5 日間にわたり復旧できなかったことから、事務所のインターネット回線や固定電話などに通信障害が続き、大学本部との連絡にも支障をきたしました。

確認した被害は 141 箇所でそのうち建物損傷が 14 箇所、林道での倒木や路肩崩壊、土砂崩れなどが 127 箇所でした。建物損傷は屋根の瓦やトタンが吹き飛んだものが多く、事務所構内の駐車場の車庫が吹き飛んで隣家の屋根や外壁などに与えた被害もありました【写真下左：写真手前が演習林事務所構内】。林道では倒木による被害が 71 箇所 176 本と多く、また 50 立方を超える土量の土砂崩れも数箇所でも発生していました。さらに台風 19 号の大雨による林道被害は 33 箇所、続いて 10 月 25 日に襲来した台風 21 号では 94 箇所でも発生するなど、緩んだ地盤に更に被害が拡大しました（一部重複被害箇所あり）【写真下右：林道の路肩崩落】。



【秩父演習林の被害状況】

台風 19 号による豪雨被害は河川の決壊に関する報道が多く取り上げられていましたが、山間部の地域では土砂崩落が各地で発生し、道路の通行止めが相次ぎました。秩父演習林内においても

各地で土砂崩落や河川の氾濫に見舞われ、演習林創設以来の甚大な被害となりました。

被害は 113 箇所になり、崩落による土砂堆積が 50 箇所（推定土量 4,084 立方）、路面洗堀や路肩崩壊が 57 箇所、倒木本数が 31 本、構造物損壊が 22 箇所、乗用モノレールの浸水や支柱洗堀、学生宿舎の建物損壊などの被害が発生しました。1 箇所あたりの災害の規模も非常に大きく、なかでも学生宿舎の損壊と乗用モノレールの浸水は目を疑うほどの光景でした。台風通過の直後が休日であったため、学生宿舎の状況は近くに住む職員（非常勤）からによるもので、その情報から可能な職員が緊急出勤して対応することになりました。宿舎は斜面上方にある山林からの土石流により【写真右上：写真の右上から右下に向けて土砂が流れた】、建物 1 階の壁の一部が壊滅状態となっており、その部分から侵入した土砂が 1 階の床上 15cm 位まで溜まっていた（浸水は床上 30cm 位）【写真右中：1 階の厨房付近】。幸いにも建物の基礎となる柱に異常がみられなかったので、出勤した職員で可能な限り土砂の掃き出し作業を行いました。乗用モノレールは、バケモノ沢から流出した土砂（推定 2,370 立方）が堰堤を超えて、モノレールがある車庫周辺に堆積したため浸水しました【写真右下：職員の後方に堰堤があり、平常時はそこから地下部にある土管を通して水が流れています。右側の構造物がモノレールの車庫】。モノレールの車庫は屋根まで高さ約 2m ありますが、車庫の外側が半分以上の高さまで土砂で埋め尽くされており、車庫内では流入しなかった土砂の代わりに水がプール状態となったため、モノレールが浸水被害を受けました。



風倒木や路面の土砂除去など、演習林職員が直営で処理可能な作業は随時進めていますが、予算的に独自で対処できない被害箇所等も多いため、これらは文部科学省の災害復旧事業や国立大学法人総合損害保険（国大協保険）に申請いたします。災害復旧事業は数年がかりでの工事が予想され、今回の被害により、林道のほとんどが車両の通行が制限される、または全線通行止めとなっており、長期間にわたってこの状態が続くことは、演習林の教育研究を展開する上で大きな影響を及ぼしています。

また、演習林では、東京大学の寄付金制度を活用して「東京大学の森」育成資金プロジェクトによる千葉演習林支援金と秩父演習林支援金の募集を進めています。皆様からの温かいご支援に感謝申し上げますとともに、教育研究機能の回復のため大切に活用させていただく予定です。